

日本応用藻類学会第16回大会企画シンポジウム

「岡村金太郎先生 生誕150周年記念・ 新たな藻場像の構築と海藻資源の持続的な利用」

IPCC第5次評価報告書（AR5）（2014）が示すように地球温暖化に連動した海水温の上昇、海洋酸性化など、海洋環境が変化する中で、海洋生物資源の持続的な利用、維持管理、開発が必須となっている。そして、応用藻類学の分野においては、特に、大型海藻や海草に注目するとき、生物多様性を保全し生態系機能を維持した藻場の利用、維持管理、開発に関する基盤技術の創出が強く求められている。

日本における応用藻類学の創始者であり、藻場の生物学的な調査・研究と海苔養殖の技術開発に貢献した、岡村金太郎先生（1867-1935）生誕150周年を記念し、藻場研究の最前線から、地球温暖化の藻場への影響、藻場の生態系サービス機能、藻場の生態学的な考え方とその機能利用について、講演と論議をもって、新たな藻場像の構築と海藻資源の持続的な利用のための研究開発と基盤技術の創出のための提言をおこなうことを目的にシンポジウムを企画した。

プログラム

- 14:00～14:15 S01 [趣旨説明]・[岡村金太郎先生（1867-1935）]
：宮田昌彦（千葉県立中央博物館）・能登谷正浩（東京海洋大学名誉教授）
- 14:20～14:50 S02 [地球温暖化と藻場]
：熊谷直喜（国立研究開発法人国立環境研究所・生物-生態系環境研究センター）
- 14:55～15:25 S03 [藻場と生態系サービス]
：堀正和（国立研究開発法人水産研究・教育機構・瀬戸内海区水産研究所）
- 15:30～16:00 S04 [藻場の生態学的な考え方とその機能利用]
：能登谷正浩（東京海洋大学名誉教授）
- 16:05～16:30 S05 [総合討論：新たな藻場像の構築と海藻資源の持続的な利用]
コーディネーター：能登谷正浩・宮田昌彦
パネリスト：熊谷直喜（国立環境研究所）（藻場）
四ツ倉典滋（北海道大学）（コンブ場）
倉島彰（三重大学）（アラメ・カジメ場）
寺田竜太（鹿児島大学）（ガラモ場）
堀正和（瀬戸内海区水産研究所）（アマモ場）

開催日：2017年5月27日（土）
一般口頭発表：10:00～12:00
13:00～13:30
ポスター発表：13:30～13:55
企画シンポジウム：14:00～16:30
会場：東京都港区港南4-5-7
東京海洋大学品川キャンパス
楽水会館大会議室



K. Okamura

岡村金太郎（1867-1935）
：「大生物学者と生物学（興學會出版部）」より転載